

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212P106	日常生活援助技術 (Nursing Skills for Daily Living)	専門教育科目 基礎看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	前	金 3・4・5	佐藤祐貴子、原田千鶴、清村紀子、野上龍太郎、安藤敬子 (福祉健康科学部) 他 内線: 5031 E-mail: haraguti@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】 本科目は、看護に共通する基本技術を基盤とし、科学的根拠に基づく、看護技術の原則を踏まえた日常生活援助技術について学ぶ。療養環境の整備や食事、排泄、活動、清潔など人間が健康な生活を営むために必要な活動を理解し、対象者/看護者役割を体験しながら安全・安楽の確保および自立に向けた看護技術の修得を目指す。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 学習する看護技術の原則・根拠を説明できる。	○						
2. 原則に沿って目的および根拠をもった看護技術が実施できる。	○						
3. 看護技術の実施および対象者の役割の実施を通じて体験したことを述べられる		○					
4. 看護技術の実施体験から、看護者としての自己の課題に気づき言語化できる							○

【授業の内容】 *スケジュールの詳細は初回コースオリエンテーション時に配布・説明する。

回数	内容	回数	内容
0	コースオリエンテーション	16	排泄援助技術① (基本的知識)
1	活動・運動援助技術① (基本的知識)	17	排泄援助技術② (床上排泄、陰部洗浄)
2	活動・運動援助技術② (体位変換・ポジショニング)	18	排泄援助技術③ (おむつ交換)
3	活動・運動援助技術③ (移乗・移送)	19	食事援助技術① (基本的知識)
4	環境調整技術① (基本的知識)	20	食事援助技術② (食事摂取、口腔ケア)
5	環境調整技術② (ベッドメイキング)	21	苦痛の緩和・安楽確保の技術 (冷罨法・温罨法)
6	環境調整技術③ (リネン交換)	22	看護技術シミュレーション演習 (アセスメント)
7		23	看護技術シミュレーション演習 (実技)
8	環境調整技術④ (実技チェック)	24	看護技術シミュレーションテスト (実技テスト)
9	清潔・衣生活援助技術① (基本的知識)	25	
10	清潔・衣生活援助技術② (寝衣交換)	26	看護技術探求学修① (グループワーク)
11	清潔・衣生活援助技術③ (足浴)	27	
12	清潔・衣生活援助技術④ (洗髪)	28	看護技術探求学修② (グループワーク)
13		29	看護技術探求学修② (プレゼンテーション)
14	清潔・衣生活援助技術⑤ (全身清拭)	30	
15			

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A: 知識の定着・確認	○	リフレクションシート、概念化シート、調べ学修	・対象者/看護者役割の体験 ・実技テストに向けたエビデンスの探索、
B: 意見の表現・交換	○	ディスカッション、プレゼンテーション、学びの省察	
C: 応用志向	○	実技シミュレーション、実技テスト	
D: 知識の活用			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	テキスト該当範囲の熟読、テキスト内の動画の閲覧、事前学習課題への取り組み (毎回 1h : 計 30h)
事後学修	授業内容の復習、看護技術の反復練習 (毎回 1h : 計 30h)

【教科書】・茂野 香おる 他: 基礎看護技術 I, 第 19 版, 医学書院, 2023
・任和子 他: 基礎看護技術 II, 第 18 版, 医学書院, 2021
・竹尾恵子 監修: 看護技術プラクティス第 4 版, 学研メディカル秀潤社, 2019.

【参考書】 坪井良子他編: 考える基礎看護技術 I 第 3 版, スーヴェルヒロカワ, 2005.

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4
期末テスト	50%	○	○	○	
実技テスト	30%	○	○	○	
プレゼンテーション	10%	○	○		
学修成果物・貢献度	10%	○			○

【注意事項】 *授業前は、準備学修を必ず行ってくること。

- ・清潔に留意し、服装・髪型・爪を整えてユニフォームとナースシューズを着用し参加すること。
- ・防寒用のカーディガンは演習・実習で使用できる専用のものを準備しておくこと。(ジャンパー、コート等不可)

【備考】 科目の連絡や課題の提示、資料配布は、毎回 Moodle を活用する。(各自で確認すること)

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の实務経験		看護師：佐藤祐貴子，原田千鶴，清村紀子，野上龍太郎，安藤敬子 他 保健師：安藤敬子
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした、教育内容		臨床での豊富な経験と、熟練の技術をもって原則に基づいた日常生活の援助技術について教授する。
授業形態		直接授業